横浜国立大学大学院修士論文
出井真純：
乳幼児同行者による駅利用に関する研究

－子育てバリアフリーに対応した地域環境づくりの考察－

横浜国立大学建築計画研究室
08GC204　出井真純
指導教員　大原一興　藤岡泰寛

研究背景と目的

乳幼児同行者による駅利用

①交通機関のバリアフリー化
バリアフリー対象の拡大

②子育て期の外出行動の重要性
ひきこもり親子による児童虐待

③子どもが大きくなるまでの我慢

④周囲の意識・注目度の低さ
障害者や高齢者と比較して

⑤建築計画での検証不足

駅＝親子の行動圏を広げる。

駅の利用実態、評価、ニーズを明らかにすることで

子育てバリアフリーに対応した駅計画の基礎的資料を得る。

調査概要

【対象駅】
普段の親子での外出行動に着目　→　横浜市内の中規模駅10駅
（1日の利用者が5万人程度）

A.区役所の最寄り駅8駅
星川駅(保土ヶ谷区)・鶴ヶ峰駅(旭区)・中山駅(緑区)・センター南駅(都筑区)・大倉山駅(港北区)・
蒔田駅(南区)・井土ヶ谷駅(南区)　→乳幼児同行での利用が多い

B.バリアフリー設備が欠如2駅
菊名駅・大口駅　→比較対象

【調査方法】アンケート調査
健診での手渡し及び子ども関連施設での配布

【アンケート調査概要】

調査対象
4歳未満の子供を持つ保護者
アンケート回答率
配布数：1444通／回収数：540／回答率：37.4%
調査内容
①外出行動と駅利用　②外出時の意識 ③対象駅の評価　④対象駅で困った経験 ⑤望む子育てバリアフリー設備　など

研究課題

①乳幼児同行者の外出行動と駅利用の実態
・・普段の駅施設の使われ方

②乳幼児同行者による駅の評価
・・駅のどこでどのように、なぜ使いにくいと感じるのか

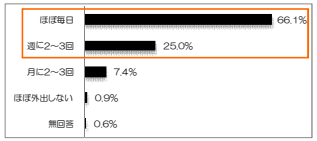
③乳幼児同行者の駅に対するニーズ

→子育てバリアフリーに対応した駅とは

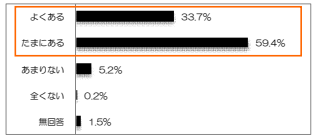
1.乳幼児同行者の外出行動と駅利用の実態

①外出行動

【子どもを連れた外出頻度】



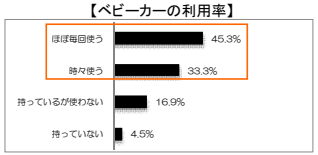
【外出時に困ること】



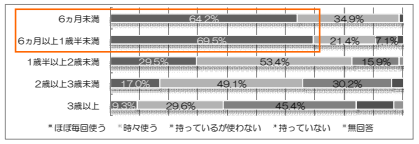
→ 子どもを連れて頻度に外出するが、困ることがとても多い。

②ベビーカー利用

【ベビーカーの利用率】



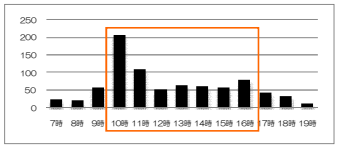
【月齢別　ベビーカーの利用率】



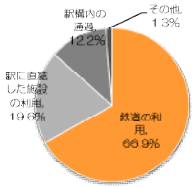
→ ベビーカーの利用率は高く、特に子どもが歩けるようになる3歳までよく利用する。

③駅利用

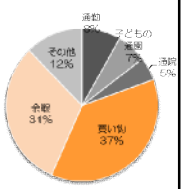
【時間帯】



【利用目的】

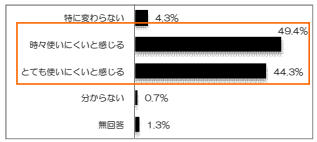


【鉄道目的】

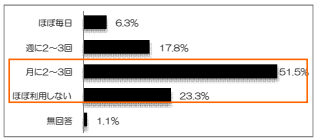


→昼間、買い物や余暇を目的とした鉄道利用のために駅を使っている。

【使いやすさ】



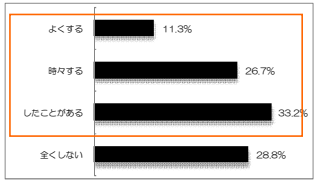
【利用頻度】



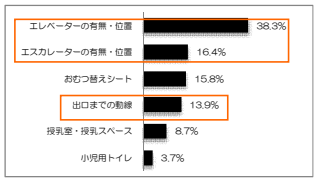
→乳幼児同行での駅はとても使いにくく、利用頻度は低い。

③駅利用

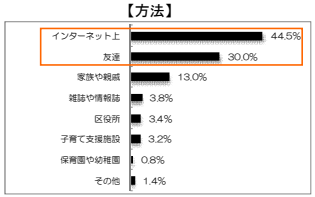
【下調べ】



【内容】



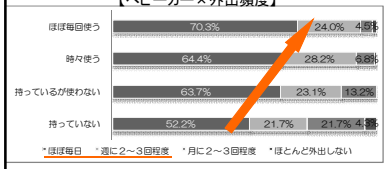
【方法】



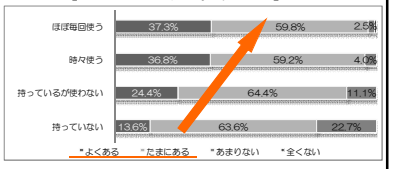
情報収集に積極的である。
移動の経路に関心が強い。
インターネットや友人から情報を得ている。

⑤ベビーカーの影響

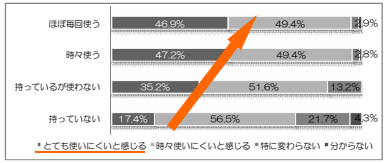
【ベビーカー×外出頻度】



【ベビーカー×外出時に困ること】



【ベビーカー×駅の使いやすさ】



ベビーカーを使うほど・・・

・外出頻度は高まる。

・外出時に困るようになる。

・駅は使いにくくなる。

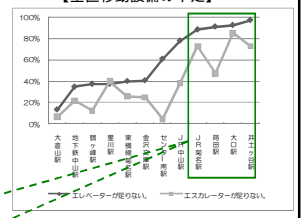
2.乳幼児同行者による駅評価

垂直移動の円滑性

【駅評価】

	時々使いやすいと思う	あまり使いやすいと思わない	全く使いやすいと思わない
あまり使いにくいと思わない	大倉山駅(31.3%)	金沢文庫駅(27.8%) 鶴ヶ峰駅(26.9%)	
時々使いにくいと思う		センター南駅(35.1%) ＪＲ中山駅(30.1%) 星川駅(29.5%) 鶴ヶ峰駅(26.9%)	
よく使いにくいと思う		井土ヶ谷駅(37.8%) 蒔田駅(34.4%)	大口駅(69.2%) ＪＲ菊名駅(30.8%)

【垂直移動設備の不足】



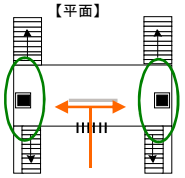
垂直動線への不満が高い駅ほど評価が低い。

⬇

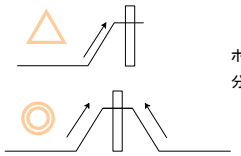
垂直動線の円滑性が駅の評価軸で最も強い。

評価の高かった駅の共通点

【平面】



【立面】



ホーム階への人の流れが分散。

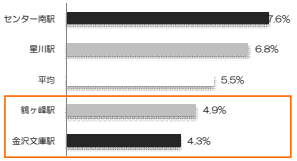
改札付近の経路選択が明快である。

・・方向ごとで左右に分かれる。
ホーム案内が改札入ってすぐに垂直面である。

移動手段の選択が明快である。

・・エレベーター、エスカレーター、階段の始点が1箇所に集まっている。

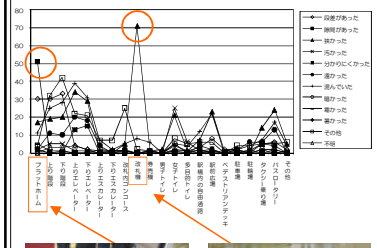
【ホーム幅への不満】



ホーム幅が広い。

ベビーカー独特の視点

【駅で困ったことのある場所と理由】



プラットホーム × 隙間

改札機 × 狭かった

【改札スケール】

通常＝560㎜

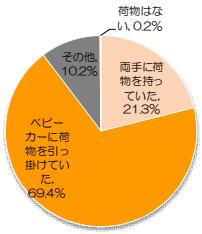
広いところ＝910mm

【ベビーカースケール】

ひとり用：W＝515㎜

／双子用：W＝890㎜

【駅で困った時の手荷物】



乳幼児同行の場合荷物が大きいので隙間や幅など安全に移動できるポイントが評価される。

研究概要 | 外出行動 | **駅評価** | 整備イメージ

評価が高いもの、低いもの

エレベーター

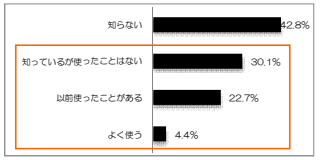
・有無だけでなく、
・配置や広さ、つくりなども評価対象。

ホームの安全柵

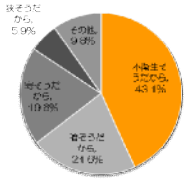
・センター南駅が使いやすい理由
・星川駅に望む設備
・外出時にあると便利なものなど

多目的トイレ／赤ちゃん設備

【多目的トイレの認知度】



【使わない理由】



認知度は高いものの、細かい設備要求に対応しておらず、衛生面に関する指摘も目立った。

研究概要 | 外出行動 | **駅評価** | 整備イメージ

優先意識

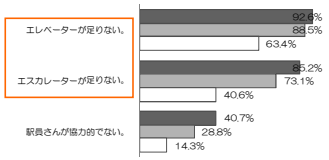
【エスカル＝かご昇降機】

・エレベーター、エスカレーターが無い。

・駅員に頼み動かしてもらう。

↓

垂直設備への不満度は高い。



【乳幼児同行者の優先意識】

気が引ける ←優先してほしい

機械を動かしてもらうほどではない　駅員さんに手伝ってはもらいたい

お年寄りや車いすの人に譲る ←他の人には譲ってもらいたい

研究概要 | 外出行動 | **駅評価** | 整備イメージ

階層的な要求

【駅ごとの要求設備】

順位	安全に移動するための設備			安心して駅を使うための設備				
	階段入口ーブ	大きいエレベーター	ホームや通路幅の広さ	小児用トイレ	授乳スペース	おむつ替えスペース	キッズスペース	屋外空間
1	J	G	H	J	F	F	F	D
2	A	D	D	F	E	E	B	A
3	I	J	G	A	B	I	D	E
4	H	H	C	E	A	B	C	C
5	G	C	I	I	C	A	E	B
6	D	I	J	B	D	G	J	I
7	C	E	A	C	H	C	A	F
8	B	A	F	G	I	J	I	H
9	E	F	B	D	G	H	H	J
10	F	B	E	H	J	D	G	G

：評価の高い3駅

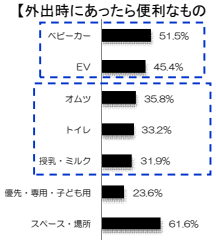
：評価の低い4駅

評価の低い駅ほど「安全のための設備」

評価の高い駅ほど「安心のための設備」

を要求。

【外出時にあったら便利なもの　頻出単語】



→ ベビーカー時の垂直移動に最も関心

→ 次に乳幼児専用の設備を要求

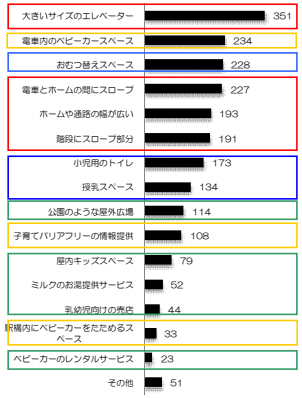
乳幼児同行者の駅への要求は、

安全性→安心性という階層が見られた。

研究概要 | 外出行動 | **駅評価** | 整備イメージ

4.乳幼児同行者の駅に対するニーズ

望む4つの環境要素



1安全性

垂直移動の円滑性／電車の隙間／改札の幅と配置

⬇

2安心性

赤ちゃん設備／お手伝いを呼べるもの
／不特定多数の中でも安心できる

⬇

3快適性

優先性／情報提供／駆け込める・休める場所

⬇

4利便性

サービス／地域の中で子育てサポート拠点

→整備の優先順位

安全性 ＜改札の計画例＞

①幅

【計画】910mm以上／双子用にはそれ以上

【理由】ベビーカーが引っかからないようにするため。

②位置

【計画】他の改札に挟まれるように配置

【理由】駅員窓口前だと、人が並んでいる場合に通れない。

③優先性・方向性

【計画】入る用・出る用各1つずつ。

1つのみの設置→手前に明記する。

【理由】他の改札と同じように使用すると、使いたい人と普通の人で動線が混乱するので。

安心性 ＜トイレの計画＞

①スケール

【計画】多目的以外のトイレもベビーカーごと通れる通路幅。

個室のうち1つでもゆとりあるスペース。

【理由】ベビーカー利用時、自分がトイレを使う際にベビーカーを置き去りにせずすむよう。

②ベビーキープ

【計画】ベビーチェアだけでなくベビーベッドも個室に。

【理由】お座りができない月齢だとチェアが使えない。

③小児用トイレ

【計画】女子トイレだけでなく男性トイレにも／小便器だけでなく補助便座も。

【理由】パパが連れている時も使いたい、という意見が見られた。

④手洗い場

【計画】踏み台の設置／低い高さの洗面台／汚れものも洗える大きめの手洗い場も便利。

【理由】子どもも洗えるように。

おむつ替え台の近くにあると便利。

安心性 ＜トイレ・インターホン＞

⑤おむつ替え台

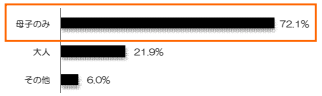
【計画】現サイズより大きめの台。（畳のように寝転べるスペース）／おむつを捨てられるごみ箱。
【理由】子どもが大きい場合、おむつ替え時の用品が多く、現サイズでは小さい。
大きめの台は、保護者が手を洗う時や荷物を整える時に子どもを置いておけるので便利。

⑥パウダースペース

【計画】1か所でも足置き場や、いす、カーテンの設置。
【理由】授乳もできるスペースになる。

【インターホンの設置】

【困った時の同行者】



母子のみでの行動時に困ることが多い。

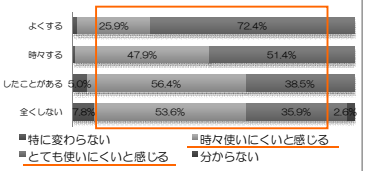
駅員さんにベビーカーを運んでもらう（菊名駅）

快適性

【休憩スペースの使われ方】

・休める場所。
・電車を待つときの暑さや寒さ、風除け。
・泣いてしまったときに駆け込みあやせる場所。
・乗車時にベビーカーをたたむ場所。
・混雑を回避できる場所。
・荷物をまとめる場所。
・いすなどでもよい。
・ガラス張りなど、安全性も確保する。

【情報】



・下調べをしても使いやすくならない現状。
・事前に知っていれば周りに迷惑をかけずに済む。
・電鉄会社を一元化。
・改札での配布。
・エレベーターが無い場合は無い情報も。
・立体構内図が分かりづらく文字媒体。
・電車のドアの開閉側。
・混雑度合い。

利便性 ＜レンタル・売店＞

①ベビーカーのレンタル・預かりサービス（駐ベビーカー場）

【内容】外出行動の一部（駅までは自転車で、そのあと。／買い物中のみ利用したい、など）
でベビーカーを利用したい場合。
【理由】自宅から交通機関を経て目的地までの往復全てでベビーカーが必要なのではなく、
行きたいところによってはベビーカーを利用した方が不便なところも。
【効果】ベビーカーそもそもの利用が減る。

②乳幼児用品の販売（売店／自動販売機）

【内容】おむつや食事、お菓子が足りない時の補助的なものとして購入。
【効果】荷物が減ることで、ベビーカー利用も減る。

⬇

中規模駅が地域の中で子育てサポートをする拠点となる。
その駅を最寄りとする人、訪れる人、ともに便利かつ安心した外出行動につながる。

まとめ

明らかになったこと

①乳幼児同行者の外出行動と駅利用

・外出頻度の高さとベビーカー普及
・駅は下調べをしても使いにくい

②乳幼児同行者による駅評価

・垂直移動の円滑性
・子ども連れならではの視点

③乳幼児同行者のニーズ

・安全性／安心性／快適性／利便性

「出かけたいのに出かけにくい」乳幼児同行者

・駅整備の遅れから「出かける気になれない」「行動範囲が狭くなった」「駅に行きたくない」
・子連れでの駅は「危険」「不便」「こわい」「困る」

「ユニバーサル」の視点

・子育てバリアフリーが他の利用者の使いにくさにつながってはいけない。
・利用者目線での整備→チェックの繰り返し。
・駅の整備拡充→外出行動の促進
→地域環境の整備への発展